

## 2. 定期的に歯科健診又は歯科医療を受けることが困難な者に対する歯科口腔保健

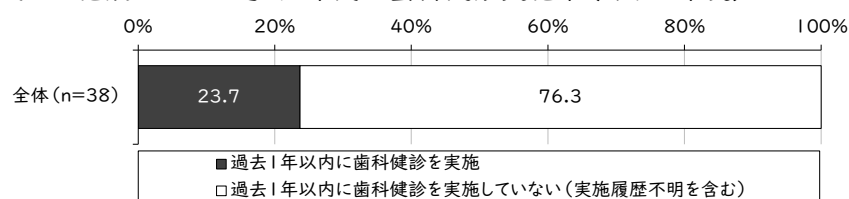
### ●特徴

- 障害や要介護の程度により、歯磨きが困難であったり、薬の副作用等で唾液の量が減るなどして、口腔衛生状態を良好に保つことが難しく、むし歯や歯周病のリスクが高くなります。
- 障害や要介護の特性により、コミュニケーションが難しく、歯科受診が困難であるなど、治療の遅れから重症化しやすい傾向があります。
- 唾液の減少や、嚥む、飲み込むなどの口腔機能の低下により、誤嚥を引き起こしやすくなります。誤嚥性肺炎の可能性も増加します。食べることが困難になると、低栄養や水分の摂取不足となるなど、全身の健康にも影響を及ぼします。

### ●現状と課題

- 障害者が利用する施設（施設入所支援、共同生活援助）における過去1年間の歯科健診実施率は、図32の通り、23.7%となっています。過去1年間の歯科健診の機会のない施設が多くあることから、対策が求められます。

・図32:障害者が利用する施設における過去1年間の歯科健診実施率（令和5年度）

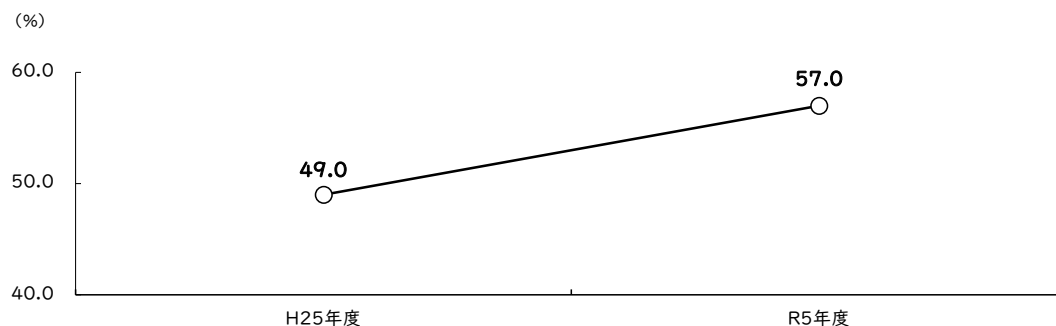


資料:令和5年度障害者が利用する施設へのアンケート調査

※対象事業所のうち「歯科健診はどのくらいの頻度でされていますか。」について「半年に1回」「1年に1回」を回答した割合

- 定期的に歯科受診（健診を含む）をしている障害者・障害児については、図14（再掲）の通り、平成25年度と比較すると増加していますが、令和5年度は6割に満たない状況となっています。障害者・障害児の定期的な歯科受診（健診を含む）が可能となるよう、環境を整えていく必要があります。

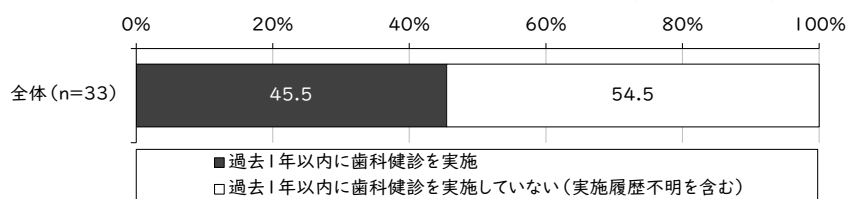
・図14（再掲）:障害のある市民の定期的な歯科受診（治療・健康診査）



資料:東大阪市障害者計画策定に関する調査

○要介護高齢者が利用する施設（介護老人福祉施設（地域密着型介護老人福祉施設を含む）、介護老人保健施設、介護療養型医療施設、介護医療院）での過去1年間の歯科健診実施率は、図33の通り、45.5%となっており、5割に満たない状況です。

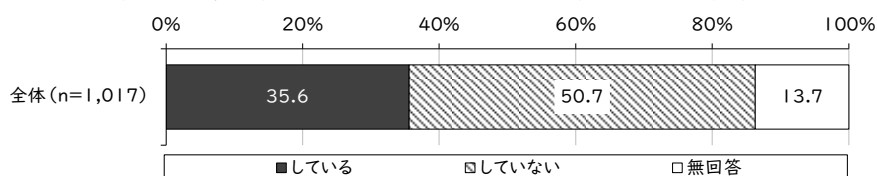
・図33:要介護高齢者が利用する施設での過去1年間の歯科健診実施率（令和5年度）



資料: 令和5年度要介護高齢者が利用する施設へのアンケート調査  
 ※対象事業所のうち「歯科健診はどのくらいの頻度でされていますか。」について「半年に1回」「1年に1回」を回答した割合

○定期的に歯科受診（健診を含む）をしている要介護高齢者については、図34の通り、3割程度となっています。要介護高齢者の定期的な歯科受診（健診を含む）が可能となるよう、環境を整えていく必要があります。

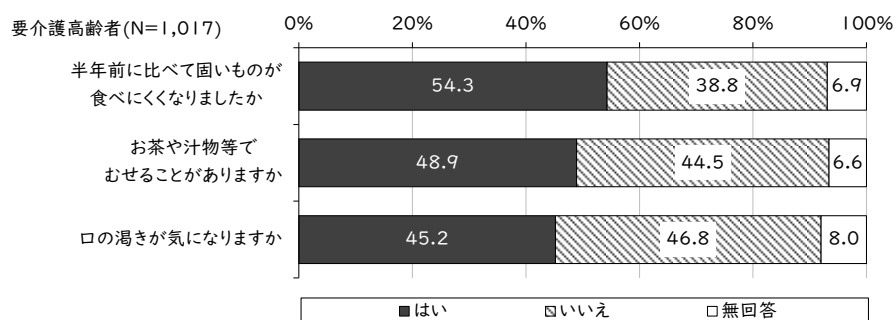
・図34:定期的に歯科受診（健診を含む）をしている要介護高齢者（65歳以上）（令和5年度）



資料: 令和5年度在宅介護実態調査  
 ※要介護認定を受けている65歳以上の市内居住者を要介護高齢者として集計

○65歳以上の要介護高齢者の口腔内の状態は、図35の通り、「固いものが食べにくい」「お茶や汁物等でむせる」「口が渇く」のいずれの項目においても5割前後となっています。

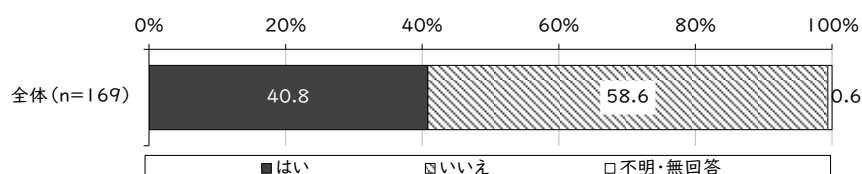
・図35:要介護高齢者の口腔内の状態（65歳以上）（令和5年度）



資料: 令和5年度在宅介護実態調査  
 ※要介護認定を受けている65歳以上の市内居住者を要介護高齢者として集計

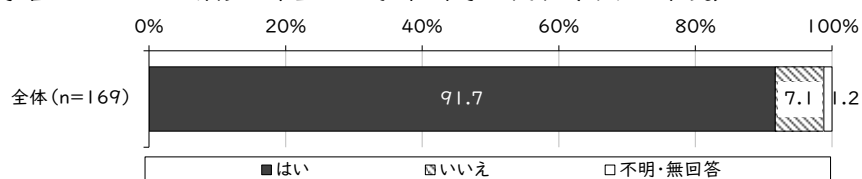
○歯と口の健康管理のための研修を受ける事業所等の割合は、図36の通り、約4割でした。一方で、研修を希望する事業所等の割合は、図37の通り、約9割にのぼります。

・図36:歯と口の健康管理のための研修を受ける事業所等の割合(令和5年度)



資料:令和5年度要介護高齢者が利用する施設へのアンケート調査・令和5年度障害者が利用する施設へのアンケート調査  
 ※「入所者の口腔ケアなどについて、貴施設の職員が知識を得る機会がありますか。」について  
 「はい」「いいえ」を回答した割合を合算

・図37:歯と口の健康管理のための研修を希望する事業所等の割合(令和5年度)



資料:令和5年度要介護高齢者が利用する施設へのアンケート調査・令和5年度障害者が利用する施設へのアンケート調査  
 ※対象事業所のうち「入所者・利用者に対する口腔ケアについて、貴施設の職員が知識を得る機会があればいいと思いますか。」について  
 「はい」「いいえ」を回答した割合を合算

## ●取組みの方針

○障害や要介護の状態により、歯科疾患が進行すると歯科治療がより困難になるため、発症予防・重症化予防が重要です。特に、歯周病は、糖尿病や循環器疾患などの生活習慣病や、誤嚥性肺炎などとの関連性が指摘されており、全身の健康増進を図る観点からも予防に取り組む必要があることから、本人または介護者による日常的な口腔ケア(セルフケア)や、かかりつけ歯科医などによる定期的な歯科健診の重要性について、啓発を推進します。

○障害者が利用する施設及び要介護高齢者が利用する施設における、歯科健診の拡充を目指します。さらに、研修については、障害者が利用する施設及び要介護高齢者が利用する施設まで対象を広げ、障害や要介護の状態に応じた口腔ケアや口腔機能の維持向上のための研修を実施し、施設における歯と口の健康管理の取組みを支援します。

○障害者・障害児及び要介護高齢者が受診困難な状況とならないよう、東大阪市立障害児者支援センター「レピラ」や、車椅子で通える医療機関、往診のできる医療機関の情報等を、市政だよりやホームページなどで周知します。

○障害者・障害児及び要介護高齢者が、住み慣れた地域で、歯科健診や歯科保健指導、歯科医療や介護者による口腔ケアなどを受けることができるよう、地域における歯科と保健医療福祉等の関係者との連携体制の推進を図ります。

○在宅で生活する、定期的な歯科健診又は歯科医療を受けることが困難な者について、歯科口腔保健の実態の把握に努め、その状況に応じた適切な歯科口腔保健を推進します。

○障害者・障害児や要介護高齢者の歯科に関するデータを分析し、必要に応じて事業の見直しなどを検討します。また、国や大阪府、他の地方自治体等の、障害者・障害児や要介護高齢者の歯と口の健康づくりに関する動向や好事例の把握に努め、関係機関や庁内関係部署との連携を強化し、歯と口の健康づくりを推進します。

# ●市民が取り組むこと

○家庭や施設において、それぞれの状態に応じた口腔ケアを行い、むし歯や歯周病の予防及び口腔機能の獲得・維持・向上に努めます。

○かかりつけ歯科医を持ちます。

○家族や介護者、施設職員等は、口腔ケアや定期的な歯科健診の重要性を理解します。

○家族や介護者、施設職員等は、口腔ケアや口腔機能の向上に関する正しい知識を持って、歯と口の健康管理をサポートします。

# ●目標

|    | 指標                           | 現状値              | 目標値<br>(令和16年度) | データソース                      |
|----|------------------------------|------------------|-----------------|-----------------------------|
| 17 | 障害者が利用する施設での過去1年間の歯科健診実施率    | 23.7%<br>(令和5年度) | 30.0%           | 障害者が利用する施設へのアンケート調査         |
| 18 | 要介護高齢者が利用する施設での過去1年間の歯科健診実施率 | 45.5%<br>(令和5年度) | 60.0%           | 要介護高齢者が利用する施設へのアンケート調査      |
| 19 | 歯と口の健康管理のための研修を受ける事業所等の割合    | 40.8%<br>(令和5年度) | 50.0%           | 障害者及び要介護高齢者が利用する施設へのアンケート調査 |